



国東町

大恩寺王子神社子ども相撲大会

8月14日(火)午後1時30分から大恩寺の王子神社で、お盆の恒例行事となっている「秦文蔵翁銘石祭・子ども相撲大会」が行われました。

江戸時代から明治時代にかけて、この地区の築堤や水路の完成などに奔走した秦文蔵翁の功績をたたえるため、大正はじめから区民の総意で「銘石祭」が行われるようになり、文蔵翁が殊のほか愛した村相撲が今日まで続けられています。

今年は、地区の住民やお盆で帰省中の皆さんが、炎天下の土俵で繰り広げられる豆力士の力相撲に、大きな声援を送りました。



子どもフェアのオープニングを飾った国東小学校の皆さんによる碁の演奏



「平家女護島俊寛」鬼界ヶ島の段を熱演した国見田舎歌舞伎の皆さん



昭和30年代の農家の生活ができる民家を舞台に「てんやわんやの大騒動! 英ちゃん劇団」愛媛国東騒動記

第6回 くにさき演劇祭開催

「第6回くにさき演劇祭」が、8月25日(土)・26日(日)の2日間行われました。開会式で宮永英次実行委員会会長、野田侃生市長が「愛される演劇祭、楽しんでもらえる演劇祭、待ち望まれる演劇祭」づくりをめざして頑張ります。」とあいさつ。25日には、英ちゃん劇団(国東町)、26日は、国見田舎歌舞伎(国見町)が上演し、客席から大きな拍手が送られました。

3年ぶりに復活し、息の合った漫才で楽しませてくれたコシヒカリ・ヒノヒカリの2人

上演に先立ち、県南落語の泥谷玄生さん(25日)、安東時男さん(26日)の落語も披露されました。

また、26日にはマルチホールで「子どもフェア」が行われ、くにさき図書館の読み聞かせボランティア「おはなしどーなっつ」の皆さんによる大型紙芝居やパネルシアター、クイズやゲームなどで、会場に集まった子どもたちは楽しいひとときを過ごしました。



4000匹の鮎のつかみ取りには、市内外から約800人が参加

安岐町

第19回 ふるさとふれあい広場 ラブリバーAKI川遊びフェスティバル

8月16日(休)、安岐川中園河川敷で「素足で川遊びをしよう!」をテーマに、安岐川を素足で歩く会(徳部伝造会長)主催による、いかにレースや鮎のつかみ取りが行われました。

お盆にふるさとに帰省した皆さんをはじめ市内外から子どもから高齢者まで多くの皆さんが参加しました。